

おかげさま ご縁の中に 生かされる

農家は昔から天候の影響をもちに受け、稲作は日照りによる雨不足や冷害などで大変な思いをしました。この北海道では時代が進むにつれて品種改良が進み寒さに強い品種が出たり、平均気温の上昇もあつて極端な不作という事は余り無くなりました。雪が融け春を迎え、気温が少しづつ上がり夏を迎える頃には豊かな実りをみせます。そして収穫の秋は喜びと共に軽やかに農作業をしていた光景が浮かびます。反対に冷害の年は作業の手も重かつたのではないのでしょうか。

人為的な努力の影響によって収穫高が



左右されるのは全体から見れば僅か。多くは天候に左右されるでしょうから、まさに天気だのみが多く農家の現実だと思います。

種（因）を床の上に蒔いても実（果）はなりません。土や水、光といったものが無ければ実りません。しかも陽が多すぎると日照りになるし、雨が多すぎると困ります。こうした条件を仏教では「縁」と呼びます。この世の全てのものはこうした「因縁果」の道理に貫かれていると思います。

思えば私達の生命もその道理の中にあります。我が生命の直接の起因は親です。その二人が出会い、子が授かり生まれる迄には無量無数の出来事（ご縁）があり、それらのどの一つでも欠けていたならば私の生命はありませんでした。この親は今生の親ばかりではありません。ひと世代前の親達。その前の世代の親達と、遡（さかのぼ）っても遡（さかのぼ）りきることの出来ない無量無数の

の出来事（ご縁）があつたはず。それだけの世代の親達の出来事の一つでも欠けていたならば、やはり私達はここにいなかったのです。その生命の不思議にうなづかされ、「そうであつた」という目覚めを賜る事を浄土真宗で「信心」と言うのです。

妙好人の浅原才市さんは「ご縁思えば皆ご縁 ご縁で才市が出来ました」と生命の不思議を謳（うた）い上げられています。才市という固定的な存在が初めからあつたわけではない。さまざまなご縁が重なつて重なつて才市となつて下さつた、という目覚めです。目覚めは悦びになり、悦びは人生を昇華させます。生きていて当たり前前の生命ではなく、有り難い生命を生かされている実感と共に生きる人生です。

一度きりのおかげがえのない人生。「貪りと怒りと愚痴に沈む人生」ではなく、才市さんのような人生を送りたいと思います。

※妙好人：親鸞聖人のお念仏の

教えを悦んだ人